

令和 元年 6月 26日現在

機関番号：33301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16897

研究課題名（和文）イスラーム復興運動をめぐる東南アジア - 南アジア間の交流に関する人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological Study on Interactions between Southeast Asia and South Asia through Islamic Resurgence Movement

研究代表者

小河 久志 (OGAWA, Hisashi)

金沢星稜大学・人文学部・准教授

研究者番号：50584067

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：世界最大の規模を誇るイスラーム復興運動タブリーグを媒体とした東南アジアと南アジアのあいだのトランスナショナルな交流の諸相について調査研究を行った。その結果として、地域間の人の移動のネットワークとプロセス、移動を可能にしている内的・外的要因が明らかになった。また、タブリーグの活動がタイのムスリムの私的・公的領域に与える影響を解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、交流という視点からタブリーグにまつわる諸現象を分析することで、従来の研究では十分にとらえることのできなかつたイスラーム復興運動をめぐる地域間の連関のダイナミズムを明らかにした。これは、人類学的イスラーム研究における視点の拡大に寄与するものといえる。また、タブリーグをめぐるタイ・ムスリムの解釈、実践を通して、イスラーム世界における南アジアの中心性を明らかにした。これにより、程度の差こそあれ人類学的イスラーム研究に通底する、中東を中心と見なすイスラーム世界認識とは異なるオルタナティブなイスラーム世界認識のあり方を提示することができた。

研究成果の概要（英文）：In this research project, I have conducted a research about the aspects of transnational interactions between Southeast Asia and South Asia through Tablighi Jama'at, the world's largest Islamic resurgence movement. As a result of this research, the researcher clarified the network and process of people's interregional migration and external and internal factors enabling its movement. Also it could be clarified the impacts of Tablighi Jama'at's activities on the private and public spheres of Thai Muslims.

研究分野：文化人類学 地域研究

キーワード：東南アジア 南アジア イスラーム復興運動 文化人類学 国際移動 宗教実践 地域間交流

1. 研究開始当初の背景

近年の世界的なイスラーム復興運動の活性化は、イスラームをめぐるトランスナショナルな人、物、情報の交流を急速に推し進めている。それにともない、各地のムスリムは、政治や経済、文化など様々な領域でその影響を受けている。本研究で取り上げる東南アジアと南アジアのあいだでも同様の状況が顕在化している。

こうしたなか、人類学上のイスラーム研究（以下、人類学的イスラーム研究）は、イスラーム復興運動がしばしば国家の政策や権力と深く結びついていることから、国民国家という一定の政治的領域を取り上げ、それとの関係からイスラーム復興運動にまつわる諸現象を分析してきた。具体的には、一国内におけるイスラーム復興運動の活動やイスラーム復興運動が国内に住むムスリムの政治や経済、文化に及ぼす影響の実態について、管理や統制といった国家側の対応に注目しながら考察するものが大半を占めていた。それゆえこれらの研究が、国外との関係性に十分な目配りをしているとは言い難い。他方で、僅かになされた国外との関係性に配慮した研究も、その大半が、諸外国から調査地に向けた人や物の移動か、調査地から諸外国への人や物の移動のいずれか一方のみを扱っている。このため、既存の人類学的イスラーム研究の枠組みでは、イスラーム復興運動をめぐる地域間の交流のダイナミズムを十分にとらえることができない。

また、人類学的イスラーム研究は、世界各地の多様なイスラームのあり様について詳細な情報を提供してきたが、そこには程度の差はあれ中東を「中心」、その他の地域を「周辺」と見なす二元論が通低していた。中東以外の地域を基点にトランスナショナルな広がりを持つイスラーム復興運動やイスラーム主義の動きは現在、本研究で取り上げるタブリーグをはじめ、世界各地で見られるようになってきている。こうしたイスラームの「多中心化」と言える動きを、上記の二元論にとらわれることなく分析する作業は、いまだ端緒についたばかりである。

2. 研究の目的

本研究は、南アジアを基点にトランスナショナルな活動を展開するイスラーム復興運動タブリーグを取り上げ、イスラームをめぐる東南アジアと南アジアの地域間交流の実態を明らかにすることを目的とする。具体的には人や物がいかなるネットワークとプロセスのもとに両地域のあいだを移動しているのか、それを可能にしている内的、外的要因はいかなるものか、タブリーグの活動によりいかなる動きがムスリムの私的、公的領域に生まれているのか、といった点を明らかにする。また、これらの考察を通して、イスラーム世界における南アジアの中心化という新たな潮流を描き出すことを目指す。

3. 研究の方法

本研究は、タイ南部トラン県とバンコクで行う実地調査を通して上記の問いに係る情報や資料を収集し、分析することを主な手法とする。具体的な調査方法は、タブリーグの活動のために南アジア諸国に赴いたタイ人と、タイにやって来た南アジア諸国出身者への聞き取りや、政治や経済、文化といった彼らの日常を構成する諸領域における活動の参与観察、関係機関での資料収集である。

4. 研究成果

上記の研究を通して主に以下の知見を得ることができた。

(1) タブリーグが持つトランスナショナルな人の交流のネットワークとプロセス

タブリーグを媒体としたタイと南アジア諸国のあいだの人の交流は、各国に散在するタブリーグの支部が中心的な役割を果たしている。タブリーグの支部は、国支部（マラカス）から村落支部（マハンラ）に至るピラミッド型の組織構造を有しており、各支部内に海外宣教を担当する部署がある。それらが連携して、国内に住むムスリムの海外への送り出しと海外からの宣教者の受け入れを管理している。たとえば、タイに宣教にやって来たパキスタン人ムスリムの場合、まずバンコクにあるタイ国支部で宣教先や宣教先での滞在期間等の説明を受ける。その後、決められたスケジュールに従い活動を開始する。具体的には、バンコクから宣教先の位置する県の支部に立ち寄って詳細なスケジュールの説明と通訳の手配を受けた後、通訳とともに宣教先に赴き現地の担当者の管理、協力のもと活動を行う。次の宣教先が同一県内にある場合は直接、宣教先に赴くが、他県にある場合はその県の支部に立ち寄り上述したプロセスのもと活動を実施する。活動の終了にあたっては再度、バンコクにあるタイ国支部に赴き活動の報告等を行い帰国の途につく。

宣教以外の人的交流としては、タブリーグが運営するイスラーム学校への留学（大半がタイから南アジア諸国への留学）があげられる。これも宣教と同様に、各国の国支部にある担当部署間の連携のもとに行われている。タブリーグのトランスナショナルな人の交流は、このよう

に制度化されたシステムの上に成り立っている。

(2)トランスナショナルなタブリーグの活動がタイのムスリムの私的・公的領域に与える影響

タイのムスリムの私的領域として本研究では信仰を取り上げた。具体的には、タブリーグが教え広めるイスラームとタイ南部の調査地に存在するローカルなイスラーム伝統との錯綜した関係性を、ムスリムの語りや宗教的实践を通して明らかにした。たとえば、タブリーグが到来する以前から調査地に存在する民間信仰をめぐる住民の解釈、実践は、タブリーグの浸透にともない多様化した。具体的には、民間信仰をイスラームの規範に反するものとして否定する動きが生まれる一方、精霊（ジン）や祖先霊（アルア）などタブリーグも認めるイスラーム的な超自然的存在を様々なかたちに取り込むことで民間信仰を新たに解釈、実践する動きが見られた。また、タブリーグの浸透にともない、住民のあいだに南アジア3ヶ国（タブリーグの総本部があるインド、パキスタン、バングラデシュ）に対する強い宗教的憧憬が生まれている。そのことは、南アジア3ヶ国のムスリムを自分たちの「手本（tua yang）」と見なす語りや、経済的な余裕があればメッカではなく南アジア3ヶ国への渡航を希望する住民が相当数いることから看取できる。この現象は、イスラーム世界における南アジアの中心化の動きを示唆するものといえるだろう。

公的領域としては、政治と経済を取り上げた。具体的には、政治・経済をめぐるムスリムの営為を、世俗政治への関与の禁止をはじめとするタブリーグの教えやタブリーグの活動を通して得られた人脈等との関係からとらえた。たとえば、調査地では近年、村落政治とタブリーグが繋がりを深めている。タブリーグの浸透にともない、タブリーグの参加者に対する住民の宗教的な評価が社会的な評価と結びつくことで、タブリーグの参加歴が村落政治において血縁関係や経済力に匹敵するだけの影響力を持つようになった。その結果、タブリーグの中心メンバーの中から政治家が誕生して村落社会のイスラーム化を推し進めている。

以上のように、タブリーグの活動とその広がりを受けてタイのムスリムの私的、公的領域にそれまでには見られなかった変化が生じていることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

小河久志・鈴木佑記「多文化共生の島ブーケット」、笹川平和財団編『アジアに生きるイスラーム』、イースト・プレス、2018年、pp.113-132、査読無

OGAWA, Hisashi “From Refusal to Acceptance: Dynamics between Muslims and Christians in Southern Thailand through NGO Aid Activities”, in Ikuya TOKORO and Hisao TOMIZAWA (eds.), *Islam and cultural diversity in Southeast Asia Vol.2 Perspectives from Indonesia, Malaysia, the Philippines, Thailand, and Cambodia*, Tokyo University of Foreign Studies, 2017:295-307、査読無

小河久志「世俗と宗教 - タイのムスリム社会を事例に」、山本信人（監修）宮原暁（編）『東南アジア地域研究入門 2 社会』、慶応義塾大学出版会、2017年、pp.289-305、査読無

小河久志「宗教を越えたNGOの協働 タイ南部インド洋津波被災地における支援活動」、信田敏宏・宇田川妙子・白川千尋（編）『グローバル支援の人類学 - 変貌するNGO・市民活動の現場から』、昭和堂、2017年、pp.319-337、査読無

〔学会発表〕(計5件)

小河久志「自己のためか、他者のためか - タイ南部インド洋津波被災地におけるタブリーグの「開発」活動をめぐって - 」、日本文化人類学会第52回研究大会、弘前大学、2018年6月3日

小河久志「宗教NGOの支援活動が生み出す新たな関係性 - タイ南部インド洋津波被災地の事例から - 」、日本文化人類学会第51回研究大会、神戸大学、2017年5月28日

小河久志「宗教団体の支援活動が生み出す新たな関係性 - タイ南部インド洋津波被災地の事例から - 」、国立民族学博物館共同研究「宗教の開発実践と公共性に関する人類学的研究」第8回研究会、国立民族学博物館、2016年1月23日

小河久志「宗教領域にみるインド洋津波災害 - ムスリム漁村の10年 - 」、日本文化人類学会課題研究懇談会「危機の克服と地域コミュニティ」第10回研究会、名古屋大学、2015年10月31日

OGAWA, Hisashi “Expansion and Control: Islamic Basic Education in Thailand under the Multicultural Circumstances”, The 9th International Convention of Asia Scholars, Adelaide Convention Centre, 2015, 7 July

〔図書〕(計1件)

小河久志『「正しい」イスラームをめぐるダイナミズム - タイ南部ムスリム村落の宗教民族誌 - 』、大阪大学出版会、2016年、272

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。